

気持ちをシェアし、人をつなぐNP0100選。

ロハスピーブルのための快適生活マガジン

# ソトコト

S O T K O T O

3

March 2012

No.153

800YEN

社会貢献大特集

## ボランティア3.0



sharing makes good even better!

ゴミ、捨てんなよ!





ハサミの力が

お洒落をしたい、でもチャンスがない。格差の広がる  
フィリピン首都マニラ。そんな環境で生きる子どもた  
ち、女性たちの元を海を越えて、日本の美容師た

photographs & text by Natsuki Yasuda

輝くチャンスをプレゼント。

国境を越える。

ち、スタイリストたちがやってきた。自分を美しくすること  
は、少しだけ前に進むきっかけ、そして日常を楽しむ仕掛  
け。そんなメッセージを、彼らはハサミに込める。

初めての体験に少し緊張しながら、カットの仕上がりをじっと待つ盲ろう学校の少女。

社会貢献大特集  
ボランティア  
3.0



輝くチャンスをプレゼント。

⑨ステージでお披露目。これからそれぞれの家族と並んで写真撮影。⑩入場してきた女の子たちを、それぞれのスタイリストがお出迎え。手を取り合い、一緒にステージへと上がる。⑪用意された8つのケーキには女の子たちそれぞれの名前が入られている。⑫突然のダンスの呼びかけ。ステージに上がったのはスタイリストのTATSUOさん。⑬最後に、女の子たちからお礼のプレゼント。マリさんは北原さんにハンカチを手渡した。手作りの包み紙に、感謝が込められている。⑭変身後、力を合わせたチーム全員そろっての1枚。



見たことのない自分へ。

①いよいよ仕上げの段階に入り、女の子たちも徐々に緊張が解けてきた。②「誰から最初に切るうか」と流ちょうなタガログ語で女の子たちと話す横田さん。③「どっちの服がいい?」と宮崎県的美容室「as-u for hair」代表、川畑真二さん。④いざカットが始まり、女の子たちの表情真剣そのもの。⑤成人式前に、北原さんがマリさんの家庭を訪問。お父さん、お母さんが温かく迎えてくれた。⑥カタログでお気に入りのヘアをじっくり選ぶ。⑦今回はフィリピン人のスタイリストも参加した。⑧三重県的美容室「broche」代表、宮田 誠規さん(左)も2回目の参加だ。



「女の子」から  
大人の「女性」への第一歩。

「さあ皆さん、美しくなったレディたちを拍手で迎えましょう！」  
スポットライトの下、8人のドレスアップした女性たちがそろい、会場はこの日を待ち望んでいた家族たちの歓声に包まれた。「デビュー」と呼ばれる18歳になった女性を祝うフィリピンの成人式。けれどもそこに並んでいるのは、この舞台に立てるとは夢にも思わなかった女性たちばかりだ。

2011年11月、色とりどりのイルミネーションが街中を包み、クリスマスモードが高まるフィリピン首都マニラ。しかし一歩大通りを外れると、華やかな街並みが一変、トタン小屋が密集したスラム街が広がっている。そんな路地裏の一角に、日本人美容師、スタイリストたちが集った。経済的に恵まれない女性や子どもたちのためのカット、スタイリングを手掛ける「ハサミノチカラ」のプロジェクトに取り組むためだ。

この企画を主催したのは、17年に渡りフィリピンで子どもたちの支援を続けているNPO法人「ACTION」。代表の横田宗さん(35歳)の呼びかけで、日本人美容師9人、スタイリスト1人が集結。それぞれ日本ではヘアデザイン大会やセミナーなどで活躍中の人気美容師ばかりだ。

貧富の差の広がる首都マニラでは、人口の4割がスラム街に暮らしている

とも言われている。「少しでも自分をきれいに見せたい年頃になっても、お洒落に気を使える余裕のない家庭がたくさんあります。そのうえフィリピンでは、美容師に資格が必要ないので質の高いサービスも受けられない。何か日本の技術を活かした取り組みができないかとずっと考えていました」と横田さんは語る。

そんなときに、美容室「SORA」代表・北原義紀さん(41歳)と出会う。北原さんはその前年、闘病の末父親を亡くしたばかりだった。心に穴が開いたような気持ちを抱える一方で、多くの人に支えられて生きていることを実感し、自身も人の役に立ちたいと考えていたところだった。すぐに具体的な計画を進め始め、2011年4月には第1回として、4人の美容師がフィリピンを訪れ、孤児院や盲ろう学校、お菓子の袋を再利用した商品「エコミスマ」を製作している女性たちのカットを行った。「最初は「何かをしてあげたい」という気持ちを強く持っていました。けれども実際に行くと、お洒落をしたという気持ちに、貧富の差も国境もなかったんです。カットした子どもたち、女性たちが笑顔になると、自分自身がそれ以上の元気をもらおう。そんな経験を、さらに多くの人と共有したいと、第2回の開催に至った。

初日は経済的な事情で成人式を行うことができない女性たちのために、屋外パーティー会場での合同成人式を開催。「ACTION」の支援を受けている



①子どもたちがギター演奏を披露してくれた②ワックスの使い方を指導する嶋根さん。③動画の撮影に参加した井上翼さん。④すっかり打ち解けた「SORA」齋田幸子さん⑤プロのダンサーでもある井上さんが、子どもたちにダンス指導⑥絵を描きながら自分の番を待つ盲ろう学校の子どもたち。⑦交流し遊び疲れて早々と眠ってしまった子ども。

綺麗になると、  
毎日がちよっぴり楽しくなる。



盲ろう学校でのカットは2回目。男の子のカットも得意とする北原さん。

NPO 100 to make you glow

子どもたちが自分自身の力で  
夢に向かってチャレンジできる  
環境を作りたい。

NPO法人「ACTION」 | 東京都

1994年よりフィリピンにおいて、孤児院、盲ろう学校、ストリートチルドレンの支援を実施。またオリジナルブランド「エコミスマ」を立ち上げ、貧困層女性への支援事業で制作している商品を販売するとともに、町の美化、環境保護を目的に活動を進めている。2・3月にはスタディーツアーを開催予定。



ハサミノチカラ最終日のジャイラホーム。

私がメンバーです!

横田宗さん  
(代表・35歳)  
東京都出身。17歳からフィリピンに通い続け、子どもたち、女性たちの支援に情熱を注いでいる。

tel.0422-26-6123 <http://www.actionman.jp/>

た」。そんな最中、何かが変わるので、フィリピンの知識もないまま現地向かうことになった。「何回も自分の姿を鏡に映している少女たちの姿を見て、人に喜んでもらうことが、自分にとって一番の幸せなのだと思えました。今は来てくださったお客様に、感謝の気持ちを持って仕事ができている。何かを与える側としてではなく、そこでの出会いに学び、力をもらって帰っていく。そんなボランティアの真髓を形にしたプロジェクトとなった。

横田さんは将来的にはハサミノチカラを通して、美容技術を身に付けられるためのヘアアカデミーの開設など、ハサミ一本で貧困を脱出できるように取り組みを目指しているという。北原さんはこう語る。「私たちが目指しているのは、その先にある“自立”です。最後に残していかなければいけないのは、技術だと思っています。ハサミの力はこれからも、国境を超えて沢山の人の生きる力を生み出し続けるプロジェクトとなっていく。



上/いつもはしゃいでいる子どもたちも、カット中はじっと静か。中/子どもたちが終わると、お母さんたちもカット。下/横田さんが通訳し、お気に入りの髪型に仕上げている。

関係者の中から、このプロジェクトに興味を持った8人の女性たちが参加した。成人式といえばフィリピン女性にとって、結婚式の次に大切な行事。パーティー会場を借り切ったり、家に人を大勢呼んでお祝いしたりということは、女性たちの憧れだ。けれども多くの家庭にとって、それは夢のまま終わってしまう。

実際に進もうとする大人の女性の姿がそこにはあった。  
ハサミを通して、  
響き合う心。  
2日目は「ACTION」が支援を続けている孤児院「ジャイラホーム」、そして盲ろう学校「ニニヨスバダアセンター」の子どもたち、合わせて70人のカット。施設暮らしの彼らにとって、お洒落に気を使える機会はほとんどないに等しい。普段はスタッフが簡単に髪の毛を切ったり、近所の理髪店で済ませている。そんな彼らにとってこの日は特別。またとないチャンスに「もっとこつちも切って!」「これじゃまだ足りない!」と子どもたちは妥協しない。美容師側も120%力を出さなければ追いつけない。ようやくカットが終わり、いつもと少し違う自分を鏡の中に見る子どもたちの表情は、どこか自信に満ちている。髪形を変えると、人に会うことが楽しくなる。規則正しい生活を毎日繰り返す彼らにとって、自分の思い描くお洒落をすることが、日常を楽しくする仕掛けになったようだ。

そんな変化を実感しているのは、子どもたちばかりではない。今回初参加となった「SORA」でスタイリストを務める嶋根義明さん(28歳)は、フィリピンを訪れてからの自身をこう語る。「髪を切ってお金をもらって、忙しい毎日の中でその繰り返し。自分の仕事に疑問を持ったこともありまし